

### (3) 保存管理計画

#### ① 個別構成要素に係る保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

##### 大湯環状列石

鹿角市では史跡の保存と活用について、1978年に「特別史跡大湯環状列石保存管理計画書」を策定し、この計画をもとに史跡の保存・保護の重要性を土地所有者に説明しながら史跡区域拡大の同意交渉を開始し、1990年、1994年、2001年に特別申請への追加申請を行った。

史跡が、立地する台地斜面にも史跡と関連する遺構が広がっているものと予測され、発掘調査を行い史跡と関連する遺構が発見された場合には、土地所有者の同意を得て史跡区域の拡大申請を行っていく予定である。これまで、史跡全体の約91%を公有化しており、今後も公有化に向けての折衝を継続し遺跡の保存管理に努めていきたい。

また、1992年には環境整備に係る「特別史跡大湯環状列石環境整備基本構想」を策定し、これに基づき1998年から史跡環境整備事業を開始している。

##### 伊勢堂岱遺跡

史跡の保存と活用を計画的に実施するために、1997年から整備基本構想を検討し、2003年3月に「伊勢堂岱遺跡整備基本構想」を策定した。この「基本構想」では、「像文のこころとかたちが生きる遺跡」を基本理念として、これを達成するために①住民参加型史跡整備の提案 ②自然環境の保存と当時の景観の創出 ③施設を含めた総合的な整備 といった基本方針を定めている。

2007年3月に策定を予定している「伊勢堂岱遺跡整備基本計画」は、「基本構想」よりさらに詳細な内容を検討しており、①計画の概要 ②史跡等の概要 ③調査の概要 ④全体計画 ⑤保存計画の内容 ⑥広域整備計画 ⑦事業計画 ⑧完成予想図 の章立てで構成している。

第1期整備の年次計画は、平成18年度から「整備基本設計」、「実施設計」と順次作成し、平成25年度終了を目標にして進めている。

#### ② 資産全体の包括的な保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

資産全体の範囲の確定をはじめとする保存管理計画立案に向けて現在検討中である。

#### ③ 資産と一体をなす周辺環境の範囲、それに係る保全措置の概要または措置のに関する検討状況

資産を含めた一体は自然環境にもめぐまれている。こうした環境の保全を目的にどういった措置を行うかなど今後検討していくことになる。